

同志社京田辺会堂（言館・光館）の出現

京田辺校地、正門から入って右、夢告館の先に、斬新な外観の建物が出現しました。「同志社京田辺会堂」です。当会堂は「新島襄の海」がつながりキリスト教と自由の精神」をコンセプトとし、学生が行き来する道を挟んで、キリスト教主義を象徴する礼拝堂「言館」(KOTOBAKAN)と、学生の自由な交流を促す「光館」(HIKARIKAN)の2棟から成っています。両館の間にある「新島襄の海」は、新島が国禁を犯してアメリカまで大海原を渡った国際主義の原点を表現しています。

言館の名は「ヨハネによる福音書」1章1節の「初めに言があった」という聖句から採られました。光館は、「創世記」1章1-3節「初めに神は天と地を創られた。(中略)神は言われた『光あれ』。こうして光があった」という文言にちなんで名づけられました。いずれの名称も根源的・神学的な事柄を指し示しています。



言館では主に礼拝が行われますが、講演会やコンサートなどにも使用されます。そこからは、ふと気が付けばオルガンの音が聞こえてくるはずです。光館は学生が自由に利用できるラウンジで、同志社に関する資料(新島襄旧蔵聖書など)の展示スペースも併せもっています。両館とも、皆さんに親しまれる施設であるようにと願っています。

(キリスト教文化センター所長 石川 立)

お知らせ

○同志社京田辺会堂 献堂記念講演

日時：4月17日(金) 15:00～16:15
 講師：同志社大学学長 村田 晃嗣
 演題：「キリスト教と大学—リベラルアーツを考える—」

日時：5月15日(金) 14:55～16:25
 講師：作家・元外務省主任分析官 佐藤 優氏
 演題：「同志社のキリスト教主義は人生にどう役立つか」

○同志社京田辺会堂 献堂記念チャペル・コンサート
 日時：5月27日(水) 13:10～14:30
 演奏者：牧師・シンガーソングライター 陣内 大蔵氏

※ 献堂記念講演、チャペル・コンサートの会場はすべて同志社京田辺会堂 言館(KOTOBAKAN)礼拝堂です。入場無料、申込不要です。

○Doshisha Spirit Week 2015 春
 6月1日(月)～6月6日(土)

○熊本キャンプ～Doshisha Spirit Tour～
 9月9日(水)～11日(金) (申込受付5月予定)
 説明会：今出川校地 5月12日(火) 12:30～
 京田辺校地 5月13日(水) 12:30～

○朝の祈禱会

日時：4月13日(月)・5月11日(月)・6月1日(月)・
 7月6日(月) 8:30～8:50
 会場：キリスト教文化センター集会所(クラーク記念館1階)

○メディテーション・アワー

オルガンの響きとともに黙想の時をお過ごしください。
 今出川校地 4月7日(火)～7月27日(月)の
 月～木 12:30～13:00
 会場：同志社礼拝堂・クラーク・チャペルいずれか
 京田辺校地 4月8日(水)～7月27日(月)の
 月・水・木 12:30～13:00
 会場：同志社京田辺会堂 言館(KOTOBAKAN)礼拝堂

○オフィス・アワー

学生の人生における悩みや不安などの相談に応じています。

今出川校地	火曜日 3講時	越川 弘英
	木曜日 4講時	三木 メイ
京田辺校地	火曜日 10:00～14:30	栗原 宏介
	(11:30～13:00を除く)	
	火曜日 3講時	三木 メイ
	木曜日 3講時	越川 弘英
	金曜日 13:00～16:15	渡辺圭一郎

チャペル・アワー案内

2015年4月1日

No.227

同志社大学
 キリスト教文化センター

京田辺
 0774-65-7370
 今出川
 075-251-3320

春学期チャペル・アワー統一テーマ

「さまざまな道に立って、眺めよ。／どれが、幸いに至る道か、と。」
 (エレミヤ書6章16節より)

「この道しかない」。昨年の衆議院選挙で政権党が掲げたこのスローガンを見て、私の脳裏に浮かんだのが今回の聖書の言葉でした。経済や政治といった社会的な事柄にせよ、私たち一人ひとりの人生にせよ、「これしかない」「それ以外はアウトだ」ということはありません。いろいろな思想や行動、いろいろな人間、いろいろな人生があるからこそ面白い、世界は豊かになります。多様性の尊重は一つの道が行き詰まったときの選択肢を確保しておくことでもあります。近年、私たちの周囲で自分の主張だけを声高に叫び、他者の存在を軽んじる風潮が強まっているように感じます。しかし自己絶対化は人間の最も愚かな姿であり醜い姿です。人が皆一つの道を歩み始め、一つの流れに巻き込まれていくとき、私たちは大いに警戒しなければなりません。今日、「さまざまな道に立って、眺めよ」と語る預言者の言葉は、鮮やかなほどにリアルな響きをもった呼びかけのように思われるのです。

(キリスト教文化センター教授 越川 弘英)



イラスト 中谷隆志

へきへき

©2015年度春学期から京田辺校地のチャペル・アワーは同志社京田辺会堂 言館 (COLEMAN) 拝堂で行われます。京田辺水曜ランチャタイム・チャペル・アワーが新しく始まり、京田辺水曜チャペル・アワーの時間が変更になります。

京田辺校地

月/日	奨励者
4/7	日本キリスト教団奈良教会牧師 栗原宏介
4/14	キリスト教文化センター助教 三木メイ
4/21	日本キリスト教団東神戸教会牧師 横山順一
4/28	日本キリスト教団石橋教会牧師 仲程愛美
5/12	日本キリスト教団千里聖愛教会牧師 川江友二
5/19	日本キリスト教団奈良教会牧師 栗原宏介
5/26	日本キリスト教団東神戸教会牧師 横山順一
6/2	キリスト教文化センター助教 三木メイ

火曜ランチャタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館 拝堂 毎火曜日12時35分~13時

月/日	奨励者
4/8	キリスト教文化センター助教 三木メイ
4/15	総長 大谷 實
4/22	生命医学部教授 逝去者追悼礼拝 渡辺好章
5/6	心理学部教授 鈴木直人
5/13	学生支援センター(学生支援コーディネーター) 土橋恵美子
5/20	日本キリスト教団宇治教会牧師 大塚 慎
5/27	特別チャペル・アワー※ (献堂記念チャペル・コンサート) 神戸女学院理事長・院長 Oshida Shun'ichi 森 孝一
6/3	

水曜チャペル・アワー 同志社京田辺会堂 言館 拝堂 毎水曜日15時~15時45分

月/日	奨励者
4/7	キリスト教文化センター所長 石川 立
4/14	理事長 水谷 誠
4/21	日本キリスト教団京都教会伝道師 小岩 輝
4/28	音楽礼拝 同志社学生聖歌隊
5/12	夙川学院短期大学特任教授・宗教主事 樋口 進
5/19	日本キリスト教団京都丸太町教会副牧師 熊谷 沙蘭
5/26	神学部嘱託講師 若林 裕
6/2	同志社中学校・高等学校教諭 Oshida Shun'ichi 桜井 希

火曜チャペル・アワー

神学館 拝堂 毎火曜日17時30分~18時10分

月/日	奨励者
4/8	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
4/15	学長 村田晃嗣
4/22	副学長 真山達志
5/6	神学部長 越後屋 朗
5/13	日本キリスト教団桂教会牧師 池谷 明高
5/20	日本キリスト教団紫野教会牧師 大澤 宣
5/27	日本キリスト教団近江八幡教会牧師 深見 祥弘
6/3	日本キリスト教団甲斐教会牧師 Oshida Shun'ichi 西澤 他喜衛

月/日	奨励者
4/8	キリスト教文化センター助教 越川 弘英
4/15	学長 村田晃嗣
4/22	副学長 真山達志
5/6	神学部長 越後屋 朗
5/13	日本キリスト教団桂教会牧師 池谷 明高
5/20	日本キリスト教団紫野教会牧師 大澤 宣
5/27	日本キリスト教団近江八幡教会牧師 深見 祥弘
6/3	日本キリスト教団甲斐教会牧師 Oshida Shun'ichi 西澤 他喜衛

水曜チャペル・アワー クラフ・チャペル 毎水曜日10時45分~11時30分

金曜ランチャタイム・チャペル・アワー

同志社京田辺会堂 言館 拝堂 毎金曜日12時35分~13時

月/日	奨励者
4/10	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 渡辺 圭一郎
4/17	日本キリスト教団大和郡山教会牧師 尾島 信之
4/24	日本キリスト教団宇治教会副牧師 大塚 泰恵
5/8	日本キリスト教団高槻日吉台教会牧師 小笠原 純
5/15	キリスト教文化センター助教 三木メイ
5/22	日本キリスト教団香里ヶ丘教会牧師 渡辺 圭一郎
5/29	日本キリスト教団大和郡山教会牧師 尾島 信之
6/5	日本キリスト教団宇治教会副牧師 大塚 泰恵

金曜ランチャタイム・チャペル・アワー

同志社 拝堂 毎金曜日12時35分~13時

月/日	奨励者
4/10	日本キリスト教団同志社教会牧師 望月 修治
4/17	日本キリスト教団上鳥羽教会牧師 月下 星志
4/24	日本キリスト教団牧師 藤浪 敦子
5/8	キリスト教文化センター所長 石川 立
5/15	キリスト教文化センター教授 越川 弘英
5/22	日本キリスト教団同志社教会牧師 望月 修治
5/29	日本キリスト教団上鳥羽教会牧師 月下 星志
6/5	日本キリスト教団牧師 藤浪 敦子

今出川校地

火曜チャペル・アワー

同志社 拝堂 毎火曜日17時30分~18時10分

『2020東京オリンピックを契機に…』

藤澤 義彦

エッセイ

2013年の国際オリンピック委員会総会で「2020年東京オリンピック大会」の開催が決定した。開催決定直後は、日本全体が大いに盛り上がったが、開催が5年後のためか、今はまだオリンピッククムードが感じられない。しかし、選手強化の面からみると、5年という年月は、すでに「秒読み段階」で、オリンピックの成功をメダルの数とするのであれば、早急に強化策を実施する必要がある。そんななか、日本スポーツ振興センター(SOC)と日本オリンピック委員会(JOC)は、東京西が丘の味の素ナショナルトレーニングセンター(NTC)に新しいトレーニング施設の建設を計画している。

ちなみに日本には、東京では対応できない屋外競技、冬季系競技、海洋・水辺系競技と高地トレーニング施設を含めて23のNTCがある。しかし、ほとんどの競技は1競技1施設でトレーニングを行っている。

海外の状況はといえば、フランスでは、パリにあるインセップ(INSEP)と呼ばれる世界的に有名な施設のほか、フランス全土にクレップス(CREPS)という公共の充実したスポーツ施設が18カ所存在する。これらの施設を利用する各競技団体は、それぞれの方針に従い練習環境を整備している。私の専門のフェンシングでは、このうちの8カ所を使用している。このような全国に数カ所の「施設」を完備し、ジュニアからトップ・クラスまで

で一貫した育成・強化を行うシステムをル・ポール(La Pole)という。このル・ポールのいいところは、特に子どもたちが自宅や、各自が希望する学校に近い場所を選択できることである。そうすることで、子どもたちにストレスをかけることなく育成・強化することが可能になる。また、全国各地にこのようなスポーツ施設を設置することに、全国各地にこのようなスポーツ振興にも貢献できる。残念ながら、日本にはこのようなシステムはない。唯一サッカー協会が「トレセン制度」と命名し、全国3カ所で行っている程度である。

ちょっと視点を変えて大学スポーツを見ると、大学スポーツの競技レベルが「東高西低」と言われて久しい。その原因の一つは、優秀な高校生選手が、数多く首都圏の大学に進学することである。この理由はいろいろ考えられるが、NTCの存在が関係していることは事実である。フェンシングでもNTCに「通いやすい大学」を希望する傾向があり、従来の勢力図が変化している。

この「東高西低」状態を変えるためには、フランスのようにとまでは言わないが、まず関西にNTCを建設するというのはどうだろうか。現在、文部科学省では、全国の都道府県に「総合型地域スポーツクラブ」を設置し、生涯スポーツの普及に努めている。しかし、スポーツの専門的強化施設は東京に集中している。そのため東京オリンピックを契機に、新しいスポーツ強化システムを全国展開させ、生涯スポーツと競技力強化の両面からスポーツの社会的地位を向上させるべきである。今後、このようなNTC構想が現実味を帯びたとき、同志社大学が何らかの協力をすることはできないものか。それが実現すれば、地域貢献とともに同志社スポーツはさらに発展することであろう。

(ふじさわ・よしひこ) スポーツ健康科学部教授

※5/27の京田辺水曜チャペル・アワーは13時10分、献堂記念チャペル・コンサートとして行います。